

ガッチリ・キャッチ 太陽の光

1

太陽光エネルギー (メガソーラーなど)



▲完成予想図 (高瀬町メガソーラー設置場所)

11月に着工し、25年4月に発電開始の予定です。広さは甲子園球場(38,500㎡)より少し狭い広さに14,660枚のパネルが敷かれる計画です(写真提供 オリックス株式会社)

新エネルギーにはどんなものがあるんだろう
新エネルギーには太陽光エネルギーやバイオマスエネルギー・風力エネルギーなど10種類あります。現在、市が重点的に取り組んでいる新エネルギーは太陽光エネルギーとバイオマスエネルギー(バイオ燃料)です。また、環境にやさしい電気自動車やグリーンカーテンにも取り組んでいます。

四国初の立地となった メガソーラー

メガソーラーとは1メガワット(1,000キロワット)を超える大規模な太陽光発電施設のことです。太陽光エネルギーを直接電

気に変え、電力会社に販売します。特に日照時間の長い四国地域には適した発電施設で、市内では現在3カ所で設置が予定されています。

高瀬町の農業法人旭ヶ丘産業が所有している養鶏場跡地にはオリックス株式会社がメガソーラー発電所の設置を計画しています。

これは電気の全量買い取り制度を前提とする民間事業者のメガソーラーとしては四国で初めて立地が決まったものです。

計画が進められている場所は34,362㎡の広さに14,660枚のパネルが敷かれ、年間の推定発電量は約2,200キロワットになり、一般家庭650世帯余りをまかなえる電力量となります。

市販の太陽電池を 高効率化する研究も開始

香川高専諮問キャンペーンの学生のアイデアを積極的に取り入れ、太陽電池をよ

り高効率化する研究・開発に取り組んでいる企業もあります。

市販されているほぼすべての太陽電池の特性を測定できる装置の開発を行い、その装置で太陽光の入射角度や影の影響などを正確に測定し、それぞれの太陽電池の高効率化を目指します。



▶太陽電池の基礎特性測定システム

特集 守れ! 青い空

~新エネルギー あなたにもできること~

次世代の子どもたちにより環境の地球を引継ぐため、市では新エネルギーの模索が始まって5年が過ぎました。また昨年3月11日の東日本大震災に伴う福島第1原発事故以来、日本中でその動きは加速しています。

三豊市の恵まれた自然資源を活かした太陽光エネルギーや廃食油を利用したバイオマスエネルギーなど、市の施策はどこまで進んでいるのでしょうか。今回はみとよ・ヤング・エコ・サミットの子もたちと一緒に考えてみました。

▼問い合わせ
環境衛生課 ☎ 73-3007 田園都市推進課 ☎ 73-3011 産業政策課 ☎ 73-3013



ヤングエコサミット参加の子もたち
手前から、堀川厚樹さん(小6)、喜田桃世さん(中3)、山下晋矢さん(高3)



▲排気ガスが出なくて環境にいい

庁舎間の書類などを毎日、2回配達する使便に電気自動車を利用しています。

各庁舎への郵便などの運搬に使用

3 クリーンな心地よさ

電気自動車

4 グリーンカーテンでエコな夏

ヤング・エコ・サミット



▲笠田高校でグリーンカーテンの手入れの講習会が行われ、長期間の省エネを実践しました



上ノ高瀬中学校では市内の施設に苗を配布。下ノみとよヤングエコサミットの理事会で苗の植え方の指導

つる性植物を植え、室温を2〜3℃下げ、エネルギーの消費を削減した今夏。市のホームページで行った投稿広場にも多くの個人や

緑のカーテン投稿広場も大盛況

市内の全小中学校・高等学校がエコ活動に取り組んでいる「みとよヤングエコサミット」。今年初めてグリーンカーテンにも取り組まれました。市内に広がったグリーンカーテンの苗は児童・生徒が丹精をこめて育てたものも多くありました

サミットでも強気に推進



▲地球の模型で温暖化実験を行いました。CO₂が増えると気温が上昇することがよくわかりました

9月12日、麻小学校では「地球温暖化! みんなができることは?」と題した出前講座が行われました。子どもたちは地球温暖化により南極やヒマラヤの水が解け、困っている人や動物がいることを知りました。また不要な電気やテレビのスイッチを切るなど、節電の大切さも学びました。

団体から応募がありました。皆さんの力作を見ています。と、節電への関心が高いことが分かります。

学んだエネルギー節約術

大切な資源、上手に使って

山下晋矢さん

三豊市が以前から新エネルギーに取り組んでいることは知っていました。この度、四国初となるメガソーラーが設置されることを知り、これからは私たちの住む三豊市の恵まれた自然環境を最大限に生かした新エネルギー施策を進めてほしいと思います。

喜田桃世さん

私は学校でいろいろなエコ活動を行ってきました。家庭の使用済み油も処理をすればいろいろな物に生まれ変わらせることを知ってビックリしました。これまでは捨ててしまっていたが、廃棄物と思わず、大切な資源として活用することにも取り組んでいきたいです。

堀川厚樹さん

ぼくたちの学校では、ランチルームの横にゴーヤを30本植えました。草抜きや水やり、ダンボールコンポストで作った肥料をやって世話をしました。毎日の給食の時間が、とても涼しかったです。今度は、家の庭でも作って涼しくしたいです。



▲市内で最初に設置した仁尾中学校

公共施設にも太陽光発電システムを設置するところが増えていきます。最も早く設置したのは平成9年3月に完成した仁尾中学校です。当時、日照時間が全国的に長く「太陽の町」と言われていた町のシンボルとして、仁尾中学校で使用する電気をまかなうほか、太陽光発電の一般普及に努めるとともに自然エネルギーの啓発のために設置しました。その後、仁尾庁舎や豊中幼稚園、豊中庁舎、山本庁舎、高瀬中学校、最近では詫間中学校体育館に設置し

公共施設7カ所に太陽光発電システム設置

個人住宅用太陽光発電システム設置件数

町名	高瀬	山本	三野	豊中	詫間	仁尾	財田	合計
22年度	48	22	30	37	21	19	10	187
23年度	33	16	28	22	26	15	11	151
24年度	49	15	29	53	31	21	9	207
合計	130	53	87	112	78	55	30	545

平成22年度から個人住宅への太陽光発電システム設置に対し、補助金を出しています。予約申請への反響は大きく、24年度の受け付けはすでに終了しました。補助金を使つての設置状況は次のとおりです。

個人住宅への太陽光発電システム設置も増えています。

2 みんなで集めよう使用済み油



▲市民の協力で集まる使用済みの天ぷら油(※本庁、各支所に回収場所を設置しています)



▲収集場所を回って定期的に回収

バイオマスエネルギー (バイオ燃料)



▲使用済み油からBDFとグリセリンが精製(詫間小学校4年生90人が精製現場を見学)

※BDF(バイオディーゼル燃料)とは軽油に成分がよく似た燃料油です

廃食油は捨てる場所はないんだ



▲ゴミ収集車の燃料に



▲暖房の燃料として

グリセリン

BDF



▲精製するとこんなに綺麗な色になります(右 BDF)